

「上山城」からのたより初夏・第121号

武士の「リアル」な生活 （上山藩の掟（規則）を例に）

（公財）上山城郷土資料館学芸員 長南伸治

「江戸時代の武士はどんな生活をしていたの？」
上山城にご来館されるお客様からは、こういった質問をよくいただきます。

おそらく、多くの人が歴史を知るきっかけになっている歴史小説やテレビの時代劇では、武士は戦をしたり、悪人を裁いたり、怪しい商人から黄金のまんじゅうを受け取ったり等々、興味を集めやすい「派手」な場面が多く取り上げられていると思います（史実か否か怪しいものもあります）。今回はそういった「派手」さはありませんが、武士の生活を知の一例として、上山藩で定められていた掟（規則）をご紹介します。

その掟は上山藩士玉造家が嘉永五（一八五二）年に作成した日誌「大御目付勤用心得」
嘉永五（一八五二）年
大御目付勤用心得
暮秋 玉造控
上山藩士玉造家作成
「大御目付勤用心得」

されています。以下は、その日誌に記された掟の一部を抜き出したものです。

一 四十歳已上杖御免の儀願の上たるへし

（藩からの許可を得れば、四〇歳以上の者は杖を使用してもよい）

一 御家中の諸士、其外罷越候儀停止の場所左ニ記

芝居 買女場 遊山所 遊茶屋 雷之場 居酒屋 賣茶屋 祭礼

右の外人込の場所立寄候無用の事

（芝居小屋や居酒屋等々、人が多く集まる場所に立ち寄ってはならない）

一 於 御前相互の名呼捨の事 但諸御役所向惣て殿付たるへし

（殿様の前で藩士同士名前を呼び合う際は呼び捨てにし、その他の役所ではすべて「殿」をつけなさい）

杖をつくのも、遊びに行くのも、互いの名を呼び合うのも好き勝手にはできない生活を送っていたようですね。以上、「派手」さはない「リアル」な武士の生活ぶりのご紹介でした。皆さんの感想お待ちしております。

【常設展示室から】「クイズ上山城探検」今年度も毎月開催決定。全問正解者には抽選で素敵な賞品があたります。